

研究主題

「伝える、伝わる、通じ合う外国語、外国語活動」

東京都台東区教育研究会小学校外国語部会

主題設定の理由

今年度から小学校学習指導要領が全面実施になり、我が国で初めて小学校における教科としての外国語が誕生した。第5・6学年の外国語科では、4領域全ての内容が盛り込まれているが、コミュニケーションの基礎を育てることが目標になることから、「聞く」「話す」を重点に置くことは言うまでもない。また、小・中・高校において設定できる英語学習の時間には限りがあり、一人一人が十分な英語の力を獲得するためには自主的な学びが必要になる。そのためには、英語学習の入門期である小学校の段階において、英語で話すことの楽しさとコミュニケーションの素晴らしさを実感し、「英語を話せるようになりたい」「英語をもっと勉強したい」と、一人一人が強く願うようにすることが最大のミッションであると考えます。

そこで、台東区教育研究会小学校外国語部会では、研究主題を「伝える、伝わる、通じ合う外国語・外国語活動」として、研究・研修を重ねてきた。「伝える」とは、相手の思いや考えを知りそれに対して何とか伝えたいと願うコミュニケーションに対する意志が込められている。「伝わる」とは、コミュニケーションを可能にするための技能を身に付けることを表している。そして、「通じ合う」とは、コミュニケーションによって生まれる楽しさや喜びを実感することを表している。

台東区教育研究会小学校外国語部会では、子供たちに英語を使って楽しくコミュニケーションができるようになることを目指して、日々の授業の質を高めるとともに、より効果的な学習活動の開発を目指して授業研究を進めている。また、実際に英語を使ってできる様々な体験活動を工夫することにも取り組んできた。一方、英語教育の鍵を握るのは教員であることから、教員への意識啓発や授業力向上の取組や、そのための研修活動にも力を入れてきた。ここでは、それらの活動を中心に、台東区全体として英語教育の充実を目指して取り組んできた内容を報告する。なお、ここで紹介する取組は、本部会としての実践に加え、部員が所属する学校において行われた実践が含まれていることを申し添えておく。

1 授業研究

外国語部では年間3回の授業研究を行い、授業力向上を図っている。授業を行う上で常に心掛けていることは、児童にとって身近な事柄に関わる題材等であること、目的をもって体験活動を行うこと、相手意識をもってコミュニケーションをとることである。本部会では、これまで、様々な学年で様々な授業実践を展開してきたが、ここでは、ALTを活用した授業実践について紹介することにする。

ALTは、配置日数等は異なるにしても多くの自治体や学校で活用されているだろう。台東区においても各学校に1人ずつ配置されているが、1クラス40人の児童が1単位時間にALTとコミュニケーションをとれる時間はごくわずかである。もしも、一度に多くのALTを集めることができれば、児童がALTとコミュニケーションをとる時間は多く確保することができる。



そこで、区内各小学校の協力を得て区内に配置している ALT を全員集め授業を行った。児童は 4～5 人のグループをつくり、「日本の魅力を紹介しよう」というテーマでグループごとに内容を決め、5 分くらいの短い時間でどのように紹介できるか考え準備をした。あるグループは、外国人が多く訪れる観光地を紹介し、また、あるグループは、もちつきや七夕まつりなど日本の伝統文化や伝統行事に関わることを紹介し、外国人に人気がある日本のアニメを紹介

するグループもあった。紹介の仕方も、絵や画像を用意したり、実演を交えたり、クイズにしたりするなど工夫を凝らしていた。紹介は一人の ALT に対して 5 分とし、時間になったら次の ALT の所へ行って、また紹介をするということを繰り返した。回を重ねるごとに紹介の仕方が上達し、笑顔やリアクションを交えるようになり、コミュニケーションを通して、伝えること、伝わること、通じ合うことの楽しさを味わうことができた。



2 体験活動の工夫

英語は、実際に使ってみて初めてそのよさ、を実感することができる。自分の英語が相手に伝わるという体験は、児童に自信を付け、コミュニケーションの楽しさを実感し、さらに学んでいこうとする意欲を高めることにつながる。台東区には上野や浅草などの観光地が多くあり、外国からの観光客が毎日大勢訪れている。そこで、児童にとって地元でもあるこれらの町に出かけ、観光地の観光スポットなどについて、訪れた外国人観光客に紹介するなど、コミュニケーションをとる場を意図的につくり、教室で学習した英語を実際につかってみることで、コミュニケーションに必要な課題を見付けたり、もっと上手に話せるようになりたいと、学習への意欲を高めたりする場にな



った。

また、近隣の大学に協力を求め、来日している留学生を学校に招待し、華道や書道、剣道など、子供たちと一緒に日本の伝統文化を体験してもらう取組を行ったりもした。いずれも、なんとか知っている言葉や表現を使い、ジェスチャーなどを交えて交流し、通じ合う喜びを体験することができた。

さらに、ALT 業者の協力を得て、いわゆる「英語キャンプ」を実施した。これは、児童を 10 人ほどのグループに一人、ネイティブの講師をつけ、昼食の時も含めて一日、全て英語で生活する体験である。プログラムの中には、体を動かしながら楽

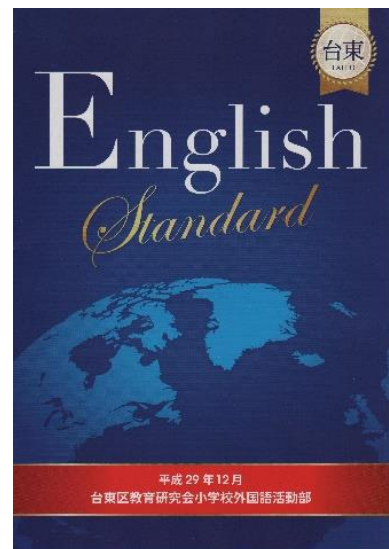


しむゲームや講師の出身地など様々な国の文化に触れ体験するものが含まれている。現在は、「Tokyo Global Gateway」に全小学校の6年生が参加し、体験を通してコミュニケーションの力を高める貴重な場として位置づけている。体験後の児童の感想からは、活動を楽しむ声とともに、「英語を話せるになりたい」と、改めて英語学習への意欲を高める声が聞かれた。

3 授業力向上のために

～「Taito English Standard」の作成～

小学校における英語教育充実の最大のポイントは一人一人の教員の授業力向上である。平成20年の学習指導要領改訂で小学校に外国語活動が位置付けられてからも、残念ながら教員の英語教育への意識は低く、ALTに指導を任せてしまうケースが少なくなかった。また、教員自身が英語力に自信がなかったり、どのように授業を展開していけばよいかが分からなかったりすることが多く見受けられた。そこで、どの教員も安心して授業を行うことができるように、授業づくりの「いろは」を示した「Taito English Standard」を作成した。これは、1単位の時間的な基本的な授業の流れを示したもので、どの小学校のどの先生も同じ流れで指導を行うことで、区内全体の授業の底上げを図るとも



English
導入 Introduction

1 あいさつ

T: Good morning, everyone. 「みなさん、おはようございます。」
 C: Good morning. 「○○先生、おはようございます。」
 T: How are you this morning? 「今朝の調子はどうですか?」
 C: I'm happy./ I'm hungry. etc 「調子はいいです。/ お腹がすいています。」 等
 And you? 「先生の調子はどうですか?」
 T: I'm good, thank you. Let's start our English Class.
 「ありがとう。授業を始めましょう。」

2 「英語学習の約束」の確認

T: Let's check the rules of our English Class.
 「英語の授業のきまりを確認しましょう。」

3 めあてを提示する

T: Let's check today's goal. 「今日のめあてを確認しましょう。」

Check!

English
展開 A Communicative Activities

1 「聞くこと」、「話すこと（やり取り・発表）」

繰り返して聞く活動
(Input)

▶

聞いた話や表現を
繰り返し発話する活動
(Input & Output)

▶

単独で
発話をする活動
(Output)

▶

友達や教師とやり取り
発表をする活動
(Output)

- 「繰り返して聞く」活動では、デジタル学習教材を効果的に用いたり、ALTと学校担任の英語を聞かせたり「聞く」活動を選択したゲームを行ったりするなど、単語に陥らないようにする必要があります。
- 「聞いた話や表現を繰り返し発話する活動」では、ALTや学校担任に聞いて発話する活動を行います。その際に、機械的にリピートするのではなく、デジタル学習教材を効果的に用いたり、ALTや学校担任が解する話や表現に聞いて発話するゲームを行ったりするなどの工夫が必要です。
- 「単独で発話をする活動」では、「書く」活動で習得した（高学年）：慣れ親しんだ（中学年）語や表現を繰り返し発話する活動を行います。この活動では、児童自身が確認できる形であることが理想です。ドリル的に発話するだけでなく児童が話せるように、デジタル学習教材を効果的に活用したり、「話す」活動を意識したゲームを取り入れたりして繰り返し発話できるようにする工夫が必要です。
- 「友達や教師とコミュニケーションをする活動」では、児童が英語を聞く・話す態度を最大限に伸ばせるような活動の工夫をする必要があります。そのためには、めあての設定が大切です。例えば「友達や先生の好きなもの/好きな言葉/好きな国/将来の夢について10人以上にインタビューすることができる」というような具体的なめあてを立てるなどして、可能な限り多くの友達や教師、ALTと英語を使って関わるような機会を設けるようにすることが考えられます。その際に、前回の表情やジェスチャーなども効果的に取り入れるようにする工夫が必要です。

展開 B Reading & Writing

2 「読むこと」、「書くこと」

新学習指導要領高学年外国語では、「読むこと」と「書くこと」に関して、以下のように記述しています。

「英語の文字の名称の読み方を活字体の文字と結び付け、名称を解すること、印刷上書くことができるようにすること、中学年の外国語活動を通して「十分に音で慣れ親しんだ簡単な語句や表現」について、読んだり書いたりすることに慣れた段階を慣れ親しんだ上で、「語彙を認識しながら書き写すことができるようにする」、「自分のことや身近な事柄について、例文を参考に書くことができるようにする」といった実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能となることを目指す必要がある」

これを受け、以下のような学習活動が必要となります。

	読むこと
書くこと	● 文字の名称を結びつけることができる。
	● 慣れ親しんだ身近な具体的な事柄を表す単語を見て、それが何かがわかる。
	● 大文字と小文字の使い分けがわかり、活字体で書くことができる。
	● 例文などを参考にしながら、慣れ親しんだ語句や文字を書き写すことができる。

に、中学校へ進学した時に学びの差が発生しないようにすることもねらった。

内容としては、導入、展開、振り返りの3つの場面に分け、それぞれの場面でどのような指導をすればよいのかを分かりやすく解説した。特に、導入で行うことを明確に示すことで、授業の流れをつくれるよう配慮した。ここでは、英語であいさつをした後、「英語学習の約束」の確認をすることになっている。これはコミュニケーションを行う上で大切なことを児童と確かめるもので、「① Listen carefully」「② Clear voice」「③ Eye contact」「④ Nice smile」（後に「⑤ Nice reaction」を追加）とした。また、この時間のめあてを明確にし、授業の終わりには、そのめあてに対してどうであったかを振り返る時間を設けている。さらに、Classroom English の例示や、授業づくりをする上での配慮や心構えも掲載した。

4 教員研修

(1) 公開研修会の開催

「Taito English Standard」の発行に合わせて、外国語活動研修会を開催した。「Taito English Standard」で示した通りに授業を展開し、基本的な授業のつくり方を提案するとともに、英語学習の魅力や可能性を児童の姿をもって理解してもらうために、授業公開を行った。そして、講師には、文部科学省初等中等教育教育課程課教科調査官（当時）の直山木綿子先生にご来校いただき、指導・助言並びにご講演をいただいた。研修会には、台東区内外から多くの参加者を得て盛会裏に終えることができた。





(2) 部会研修会

同時に、部会としては授業研究と研修会を重ねてきた。今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、参会しての部会開催には様々な制限があったが、岐阜大学教育学部准教授の瀧沢広人先生より小学校英語教育に関わる課題や、授業力向上に向けて具体的なお指導をいただいた。



5 今後の課題

(1) 中学校との連携

令和 3 年度から中学校学習指導要領が全面実施され、小学校外国語科で学習してきたことを前提として中学校の学習内容がつけられている。児童が小学校において英語学習を充実させるために、あるいは、小学校で学習したことを中学での学習に十分に生かすために、小学校と中学校との連携は、これまで以上に重要になる。本部会では、これまでも小中合同で研究会を開催する場を設けてきたが、今後、さらなる連携の在り方を検討する必要があると考える。

(2) 「Taito English Standard」の改訂

「Taito English Standard」を作成して3年が経った。小学校英語の授業改善が進み、また、学習指導要領改訂に伴い学習内容が変わってきたことから、新たな課題に応えることができるよう大幅な改訂の必要があると考える。